

青年海外協力隊の一例～吉田先生の場合～

今回はJICAのなかでも青年海外協力隊についての記事のため、本校にいらっしゃる実際に活動を行われた吉田先生にお話を聞きました。JICAのウェブサイトでは隊員の活動後の様子を詳細にすることができるので今回は先生に活動中のことについて質問しました。ここでは質問ごとに回答をまとめていこうと思います。

1.どこでいつ活動を行っていましたか？

インドネシア、ジャワ島、西ジャワ州、グヌン・グデ・パンランゴ国立公園に派遣されました。活動期間は、2011年1月～2013年1月でした。

2.青年海外協力隊での活動は様々な分野に分かれています。どの分野での活動でしたか？

環境教育分野です。活動で山奥の小中学校を巡回しながらの環境教育を行いました。また、村落開発についても活動しました。環境教育は、大きく分けてグリーンイシュー(森林保全)とブラウンイシュー(ゴミ問題)に大別されますが、私ははゴミ問題を扱いました。なぜなら、インドネシアでは家庭ごみの排出量が大きな割合を占めているからです。その中で生ごみを減らす方法としてコンポストを学校で実際に作ったり花壇に木を植えたりしました。小学生に教えることで、保護者や地域へ浸透していくことを狙っていました。

また、山奥のチサロパ村でコンポストを広める活動を行いました。地元の人との信頼関係を築くのに2か月ほどかかりましたが、信頼関係ができたあとは活動が他の村に広まりワークショップを開催することができました。

3.一番大変だったことと楽しかったこと、うれしかったことを教えてください。

大変だったことは言語の習得と地元、職場の人からの信頼を得ることでした。地元、職場の人からの信頼を得られなければ、「外国人」の私が仕事をするなどできません。また、私が勤務していた地域ではインドネシア語の他にスダ語も話されていたため、現地の人たちと心を通わせるには現地の学習が必須でした。

もちろん、楽しかったこともたくさんありました。たとえば、チサロパ村での活動の様子が、他の村に噂として広まり、結果として周辺の村落で

もコンポストワークショップを実施することができました。

4.失敗したことはなんですか？

インドネシアにいる日本人への広報には苦戦しました。国立公園への観光客を増やしたかったのですが、なかなか苦戦しました、日本人学校に働きかけたり国立公園のウェブサイトに日本語のページを作成したりしたがうまくいきませんでした。

また、地元自治体を巻き込んだ活動を目指していましたが、最終的に達成することはできませんでした。チサロパ村を環境教育活動を広めるためには、どうしても地元自治体からの資金的なバックアップが必要です。市役所の方を村に招いて説明会を実施しましたが、最終的に市役所からのバックアップを得ることはできませんでした。

5.最後に活動の中で満足できたことについて聞きました。

吉田先生は活動中に筑坂とコルニタ高校との姉妹校締結をサポートしたそうです。その中で高校生と関わることに魅力を感じ、活動終了後に教員免許を取得して筑坂に赴任しました。元々は博士課程に進学予定だったところを変更して教師になることを選び今筑坂の先生として社会科を担当しています。

以上の他にもどのように現地の方との距離を縮めていったのか、現地でのコミュニティはどのように形成されているのか等を聞きました。興味のある方は吉田先生に聞きに行ってみると良いかもしれません。

吉田先生、インタビューにご協力頂きありがとうございました。

